

文庫あれこれ◆3月の始め、2日ほど金沢をひとり旅しました。何の計画も立てず、ぶらりと。観光コースはあまり辿らないことに決めて。その気はなかったのですが、私、川(特に町なかを流れる大きな)が好きなので、1日目は犀川目指して歩き、それでそのほとりの室生犀星記念館に立ち寄り(冒頭の写真はネットからお借りした)、翌日は、浅野川を歩いて泉鏡花記念館に行きました。犀星記念館で、見たチラシに、妖怪をテーマにした展示をやっているとあったものですから。2つの記念館ともとても静かなおちついた佇まいで、いつまでも夫々の作家の世界に浸っていたくなるどころでした。◆また、歩いている途中で、玉川子ども図書館(金沢市立)に遭遇、緑豊かな公園の一角にあり、蔵書数、スペース、設備等々まったく素晴らしいものでした。ついつい図書館は覗きたくなる性分です。沙羅の樹は比ぶべくもないけれど、おばちゃんパワーでよきサービスだけは負けなようにしたいと思いました。◆文庫の本も児童書4000冊以上で開館時の2倍、一般書2000冊以上で、4倍になりました。スペースが足りなくなりつつありますが、今後新刊や最近の著者ばかりでなく、古い作家のものも入れたいなあと思いはじめています。◆でも、公立の図書館こそ、テーマでも、時代でも網羅された蔵書があるのです。図書館は知識の宝庫。市の図書館の充実を願いたいものです、ね。◆今日は伊藤忠記念財団が実施している子どもと本を結ぶ活動に貢献した人の授賞式と文庫助成金授与式に行ってきました。その選考委員をやっている人にくっついて(いつか助成をもらいたい!)。伊藤忠はテレビ「不毛地帯」(山崎豊子著)の主人公モデルの会社ですが、もう35年子どもの読書活動を支える手伝いをしてきています。◆3月は卒業の月、「海の日のおはなし会」にずっと来てくれて、文庫にも早くから会員になってくれたMちゃんも小学校卒業。これからも顔を見せてほしいな。◆そして、4月は新1年生誕生ですね。Mちゃん、Kくん、Sくん、Rちゃん、Fくん、Yくん、Rくん、Tくん、いっぱいいるね。元気に楽しく学校に通ってください!!◆ようやく春めいて来ました。でもまだ急に寒くなる日もあります。血圧の高い方、心臓に問題を抱えているらっしゃる方、水分を十分補給して、暖かいところから寒いところへ出るときは、要注意ですぞ。(西村)

“ “ これからの催し物のお知らせ ” ”

5月：アートフェスティバル期間

ロングオープン8~16日(10:00~15:00)

楽しい展示「手作り絵本など」：期間中
若葉のころのおはなし会

小さい人向けおはなし会：

9日(日)午前10:30~11:30

*16日は「小さなおはなし会」はありません。

大きい人向けおはなし会：

16日(日)午後3時過ぎ~5時30分

7月：18日(日)午前10:30~12:00

文庫開設記念子どものためのおはなし会
午後4:30~7:00

10周年記念・海の日のおはなし会

8月：夏休みロングオープン(14~22日)

10月：秋の夜長のおはなし会(16日)

12月：クリスマスお楽しみ会・おはなし会(19日)

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆4月は通常。17日(土)、18日(日)

◆5月は8日(土)~16日(日)

◆6月は通常。19日(土)、20日(土)

◆7月は通常。17日(土)、18日(日)

◆文庫の時間：土曜日は午後2時~5時、
日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、「子どものための
小さなおはなし会」があります。
午前10:30~11:00

♥文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の
2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日と
いうこともあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
みんなで勉強会(おはなしの会・沙羅)

★4月17日(土)11時~です。5月・若葉の
ころのおはなし会に向けて練習をはじめて
います。

沙羅の樹文庫便り

No.43

(2010年3月号)



暮れゆく犀川大橋

古雛を膝にならべて眺めている

森をぬく枯れし一本や囁りす

わらんべの涙もわかばを写しけり

(室生犀星句集 紅書房)

もうすぐ 春、心さわぐ春、両腕を伸ばし
空に向かって、大声をあげましょうか!

連絡先：沙羅の樹文庫

電話 0557-51-3737



スウェーデンのおはなしを2つ

ステフィとネッリの物語『海の小島』

『睡蓮の池』『海の深み』『大海の海』(アニカ・トール作 菱木晃子訳 新宿書房 06~09)

この物語も第2次世界大戦時のユダヤ人迫害がテーマです。でも、4部作ですから、物語の進行に6、7年のときの流れが描かれます。主人公は、ステフィとネッリの姉妹ですが、このふたりの成長、悩みばかりでなく、ウィーンからスウェーデンの小島に送られた疎開児童を養い親として引き受けた2家族、周囲の人々の戸惑い、それによって彼らの生活や信条は？あの当時のスウェーデンの人々の考え方や律し方、姉妹に関わるさまざまな人間がさり気なく丸裸にされていきます。児童書として読みましたが、いまの文庫で読めるのは、中学になって部活でいそがしくなったCちゃんやHちゃんしかいない。本国では一般書として読まれているらしい。

ちょっと大人の会員さん、読んでみてください。『縞模様のパジャマの少年』のような怖さはありませんが、普通の人の心のうちが垣間見えて、自分を振り返ってしまいます。

♡子ども会員のおかあさんへ お願い♡

子どもと読んで面白かった本、印象に残った本を3冊思い出して教えてください。また、お子さんと楽しんだ模様を書いてください。5周年にできたら文集をつくりたいと考えています!

沙羅の樹 より

子どもの本・文庫の本の中から紹介

『ニルスのおしげな旅 上下』(セルマ・ラーゲルレーヴ作 菱木晃子訳 福音館書店 07)

子どものころ名作全集の1冊として要約的に読んだこの本は、悪がきニルスが小人にさせられてがちょうに乗ってガンたちと空を旅する冒険として頭の隅に残っていたのですが、今回、改めて読書のよろこびを噛みしめながら読んでいます。この本はラーゲレーヴが、スウェーデンの国から、子どもたちに自分の国をよく知ってもらいたいという意図を受けて書いたものだそうで、たしかにニルスと旅をしていると、スウェーデンの地理や自然がすーっと入ってきます。日本のようにやはり起伏のとんだ国、どうして日本ではこんな試みがされなかったのでしょうか？この作者の観察力、洞察力、表現力に乾杯！高学年にお勧め。おとなのみなさんも楽しんでください。(さら)

子どもの本の紹介

(絵本)『ちいさいいすのはなし』(竹下文子作 鈴木まもる絵 ハッピーオウル社 06)*心にしみるおはなし。絵本なしでおはなしにも最適。『皇帝にももらった花のたね』(デミ作絵 武本佳奈絵訳 徳間書店 09)『1つぶのおこめーさんすうのむかしばなし』(デミ作 さくまゆみこ訳 光村教育図書 09)*同じ作者。おすすめの本です。

『アメリカ・インディアンはうたう』『うたがいのつかいみち』『ミクロの世界』『森の小さなアーティスト』『100まで生きる?』『すてきなへんな家』(たくさんのふしぎ傑作集 福音館書店)*ふしぎがいっぱい。なぜがわかるかなあ、想像してみましょう。

『学研の図鑑 鳥 増補改訂』(学研教育出版 09)*文庫に来る鳥を知りたくて購入しました。

(読み物)『魔女とふしぎな指輪』(レース・チュウ作日当陽子訳 フレーベル館 05)*シリーズであります。読んだ人がリクエストしたら入れましょう。

♡子どもの本をもっとたくさん購入したのですが、今日までに到着しませんでした。その代わりに新学期には新しい本、たくさん読めますよ!♡

新刊・新入庫 紹介

おとなの本

『親鸞 上下』(五木寛之著 講談社 10) 『新・雨月 上下』(船戸与一著 徳間書店 10) 『故郷のわが家』(村田喜代子著 新潮社 10) 『静人日記』(天童荒太著 文藝春秋 09) 『猫の水につかるカエル』(川崎徹著 講談社 09) 『南の子供が夜いくところ』(恒川光太郎著 角川書店 10) 『海松』(稲葉真弓著 新潮社 09)*川端康成文学賞『円朝の女』(松井今朝子著 文藝春秋 09) 『桐島、部活やめるってよ』(浅井リヨウ著 集英社 10)*s「小説すばる」新人賞

『悲しみを聴く石』(アティーク・ラヒーミー著 関口涼子訳 白水社 09) 『煙の樹』(デニス・ジョンソン著 藤井光訳 白水社 10)*全米図書賞

『室生犀星句集』(星野晃一編 紅書房 09)

『高峰秀子の流儀』(斎藤明美著 新潮社 10) 『青山栄次郎 伝一印の礎を築いた男』(林信吾著 角川書店 09) 『棘突たる反骨吉田茂』(工藤美代子著 日本経済新聞出版社 10) 『呼吸の本』(谷川俊太郎、加藤俊朗著 サンガ 10)*CDつき『子どもは本でできている』(手島一恵著 ライブラリー・アド・サービス 08)*寄贈

『敗北を抱きしめて 増補版 上』(ジョン・ダワー著 岩波書店 04)*リクエスト『食べて、祈って、恋をして—女が直面するあらゆること探求の書』(エリザベス・ギルバート著 ランダムハウス講談社 09) 『小さい“つ”が消えた日』(ステファノ・フォン・ロー著 三修社 08)

『超訳ニーチェの言葉』(フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ著 ディスカヴァー・トゥエンティワン 10) 『世界地図—今がわかる時代がわかる 2010』(成美堂出版 10)

『若かった日々』(レベッカ・ブラウン著 柴田元幸訳 新潮文庫 10) 『かのこちゃんとマドレーヌ夫人』(万城目学著 ちくまプリマー新書 10)

『平安朝の父と子』(服藤早苗著 中公新書 10) 『日本語を「外」から見る』(佐々木瑞枝著 小学館 101新書 10) 『北朝鮮を見る、聞く、歩く』(吉田康彦著 平凡社 09) 『ウィーン』(田口晃著 岩波新書 08)

<会員からの寄贈>

『野分一過』『再生』『更衣ノ鷹 上下』(佐伯泰英著)*文庫 『憲法九条を世界遺産に』(太田光・中沢新一著 集英社新書) 『幸田家のしつけ』(橋本敏男著 平凡社新書) 『今生のいまが幸せ』(本山可久子著 講談社) 『誰かがそれを』(佐伯一麦著 講談社) 『恋は決断力』(森まゆみ著 講談社) 『アントキノイノチ』(さだまさし著 幻冬舎)